



# 埋文だより

第12号

平成8年11月30日発行

## 日本最古の集落発見！



前原遺跡 《所在地：日置郡松元町福山》

集落と2本の道路跡

前原遺跡は、日置郡松元町にある遺跡で平成3年10月から平成8年10月まで発掘調査が行われました。

遺構で注目されるのは、縄文時代早期（約9千年前）の集落跡の発見です。20軒をこえる住居跡が発見され、当時の集落形態がうかがえる貴重な資料となりました。また「連結土坑」と呼ばれる二つの穴がトンネルでつながった遺構も発見されました。「連結土坑」は肉を薫製にするために使用されたと考えられている施設です。

遺物としては、旧石器時代の石器をはじめ縄文時代早期・晩期の土器や石器がみつかりました。そのほか、調理施設である集石や調理道具である石皿・磨石などもみつかり、当時の人々の生活の様子を知る貴重な手がかりを与えてくれる遺跡です。

### 目次

	頁
・前原遺跡	1
・発掘調査紹介(11)	2~3
・宮尾遺跡	
・持躰松遺跡	
・出水貝塚	
・県民セミナー	4
—鹿児島考古巡回展—	
・県民セミナー	5
—「発掘体験と古代の生活体験」—	
・おもなできごと	5
・発掘調査中の遺跡	6

鹿児島県立埋蔵文化財センターの見学は、  
日曜日・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、  
入館料は無料です。お近くにお越しの際は是非お立ち寄りください。

## 発掘調査紹介(11)

## 縄文人のごちそうは？

宮尾遺跡 《所在地：日置郡松元町石谷》

宮尾遺跡は、平成8年4月から9月までの6か月間発掘調査が行われ、旧石器時代から中世（鎌倉・室町時代）までの、幅広い時期の遺構や遺物が発見されました。このことから、宮尾遺跡は人々が長期間にわたり生活していた場所であったことがわかりました。

今回の調査で注目されるのは、中世のころの掘立柱建物跡の発見です。この建物跡の周辺からは土師器や須恵器とよばれる土器が多く出土しました。出土した土師器を調べてみると、普通の土師器に混じって墨で文字の書かれたものや、赤く塗られたものが見られました。このことから、建物跡は祭祀的な行事を行った施設であった可能性が考えられます。

縄文時代早期（約7,500年前）の層からは、当時の人々が焼け石を用いて調理を行ったと思

われる集石や、調理の道具である石皿や磨石も発見されました。

また、動物を捕らえるために掘った陥し穴も数多く見つかったことから、縄文時代の人々がこの場所で狩猟を行っていたと推測されます。



数多くの陥し穴

## 発掘調査進む「西回り」



西回り自動道のうち、鹿児島から伊集院インターチェンジまでの間の発掘調査は平成3年に開始され、本年度実施した前原・前山・宮尾遺跡の調査をもって終了しました。その間多くの遺跡が発掘調査されましたが、仁田尾遺跡では旧石器時代の陥し穴、山ノ中遺跡では縄文時代後期の集落跡、山下堀頭遺跡では弥生時代の住居跡や平安時代の墓など貴重な発見が数多くありました。

## 中世に思いをはせる万之瀬川

持身松遺跡 《所在地：日置郡金峰町宮崎》

持身松遺跡は、万之瀬川右岸の標高約3mの低地にあります。川の改修工事に伴う発掘調査で今年新しく堤防のできる場所の本調査と、万之瀬橋付近の確認調査を11月まで実施しました。

今回の調査では、調査区内をほぼ南北に走る石列と4基の集石・2基の炉跡・畠跡の遺構が発見されました。遺物は、中世の青・白磁（12～13世紀）・陶器（14～15世紀）を中心に約5千点ほど出土しています。

石列の性格についてはよくわかりませんが、中国産の青白磁や国内産の陶器の他に鉄さい・と石・ふいごの羽口などが石列の中に混ざっているのが製鉄に関係するものと思われます。畠跡は約350㎡位残っていて、畝と畝との間が約60～70cmで畝の上には株跡らしいものが約200

個くらい残っています。石列と畠跡の時期については出土した遺物から中世と考えられます。今後、調査が進むと中国との交易ルートの解明に役立つと思われます。



畠跡

## 貝塚に残る縄文のくらし

出水貝塚 《所在地：出水市中央町字大崎》

出水貝塚は大正9年に京都帝国大学によって調査されて以来、九州の縄文時代を代表する遺跡として知られて来ました。縄文時代早期の押型文土器と後期の縄文土器が、初めて層位的に分離された遺跡です。今回の調査は、貝塚の範囲と堆積状況を把握し、貝塚を形成した人々の住居跡や遺構の有無を確認することによって、将来的な保存の方法を探るための調査です。

今回は縄文時代中期末から後期の貝塚の周辺部を対象に調査を行い、北側の貝塚末端部分を捉えることができました。この部分では貝層の剥ぎ取りも行いました。台地内にいくつかの小貝塚が散布することも知られており、そのうちのひとつでは、貝のブロック毎の取り上げも行いました。

西側の調査トレンチでは、石錘が11個まとめて出土しました。中世の掘立柱建物跡が東側で検出され、この時期に造成が行われたこともわかりました。遺物は自然遺物など多岐にわたっています。この結果、出水貝塚は縄文時代から中世までの複合遺跡であることがわかりました。



出土した石錘

## 鹿児島考古巡回展 開催

埋蔵文化財センター開設と同時に始まった発掘体験学習『古代とのふれあい』は、平成5年度から歴史のふるさと県民セミナー『古代を探る』へと発展し、1年に6回の講座と発掘体験学習を行ってきました。昨年までの3カ年で24の講座が開かれました。また、3年目には受講者らが中心となった『埋文友の会』が発足しました。

『古代を探る』は、これまで埋蔵文化財センターにおける講座と見学が中心でしたが、本年度から、より多くの県民の方々に埋蔵文化財に親しんでいただくために巡回展を開催することにしました。県内4カ所の会場で開催される巡回展ではセンターが所蔵する遺物を中心にした展示会と講演会が行われました。歴史のふるさと県民セミナー『発見・感動・よみがえる古代のかごしま』と題した鹿児島考古巡回展は第1回目を7月3日から7月28日まで西之表市の種子島総合開発センターで開催しました。

開催にあたっては、種子島総合開発センターの方々が創意・工夫をされ、古代服を着て、はさみの代わりに黒曜石を使つてのテープカットをしたり、小学生は古代服を着て土器作りや火おこしなどの体験学習も行いました。また、「鉄砲館」とも呼ばれる同センターにはたくさんの火縄銃が展示され、県内外から数多くの観光客が訪れます。観光で訪れた方々も巡回展を見学され、喜んで帰られたそうです。



高山町会場テープカット

また、各会場において地元に着した講演会を行うことにしていますが、西之表市では、「海をめぐる交流の考古学」をテーマにした講演を行いました。特に広田遺跡（南種子町）・鳥ノ峯遺跡（中種子町）から出土している南海産の貝製品に着目して、全国的な貝・貝製品の動きを追求しました。

第2回目は、8月2日から8月26日まで高山町歴史民俗資料館において開催しました。



展示資料の説明をうける児童・生徒達

高山町会場は、早期水稲の刈り入れ時と台風に見舞われたため入館者が少ないのではと心配していましたが、予想外に多くの人が見にこられたようです。

講演会は、古墳の多いこの地域に即して「日本最南端の古墳文化とその展開」というテーマで行いました。南九州という日本の最南端に、100mを越すような前方後円墳が存在することや地下式横穴とか地下式板石積石室と呼ばれる南九州独特の埋葬形態があることに触れ、鹿児島県における古墳文化を、志布志湾沿岸部・西海岸部・内陸部の大きく3つに分けて、それぞれの特徴をとらえて考えてみました。

第3回目は出水市会場（出水市歴史民俗資料館）で8月31日から9月25日まで開催されました。第4回目は知覧町の「ミュージアム知覧」で11月7日から12月8日までの予定です。

## 「発掘体験と古代の生活体験」開催

歴史のふるさと県民セミナー「発見・感動よみがえる古代の鹿児島」の一環として7月22日(土)に「発掘体験と古代の生活体験」が開催されました。これは発掘体験や古代の生活体験をとおして広く県民の方々に埋蔵文化財に対する理解と関心を深めてもらうために毎年当センターが開催してきたものです。昨年度に引き続き日置郡松元町の前原遺跡が会場となりました。昨今の考古学ブームの影響なのか、多数の応募者がありましたが、選ばれた35家族98名が参加されました。

当日は午前中に開会式や前原遺跡の紹介があり、その後に早速、発掘体験をしてもらいました。参加者の児童・生徒は待ってましたとばかりに手に道具を持って掘り始めました。最初は遺物が出るかどうか不安だったようですが、ぞくぞくと土器のかけらなどが見つかって「出たよ!」という声があちこちから聞こえてくるようになりました。最後には、子供より保護者のほうが熱中している場面も見られました。



何か出てこないかなあ…

また、発掘体験と並行して、松元町にある南九州自動車道関連の発掘現場の写真や遺物の展示も行われ、班別に分かれた参加者は職員から

説明を受けました。

午後からは、古代の生活を体験してもらいました。今年は昨年よりも生活体験の種類が増えて、①火おこし、②土器づくり、③石器づくり④陥し穴づくり⑤古代服・アクセサリーづくり⑥古代食づくり、⑦樹木の伐採、⑧測量機器取扱い(平板・レベル・トランシット)、⑨古代人との記念撮影等の9つのコーナーを自由に体験できるようにしました。どのコーナーもふだんの生活では、体験したことがない内容だったため、参加者も最初はとまどっていたようでしたが、慣れてくるに従って思い思いに古代の生活を楽しんでいました。熱中したこどもたちからは、終了まぎわになっても「もっと掘りたい」とか、「もっといっぱい体験コーナーをまわりたい」などという声が多く聞かれました。

閉会式では鹿児島市立清水小学校6年生の小野田倫之君が参加者を代表してあいさつをしてくれました。

当日は、快晴で気温も30度を越える猛暑でしたが、暑さをしのぐ参加者の熱気が感じられた1日でした。来年はさらに新しい企画を準備してみなさんの参加をお待ちしています。



本当に切れるの?



### おもなできごと 平成8年度中途人事異動

・転出者 (H8. 9. 30付)  
文化財調査員 芝 貞夫  
(吉田町 教育長へ)

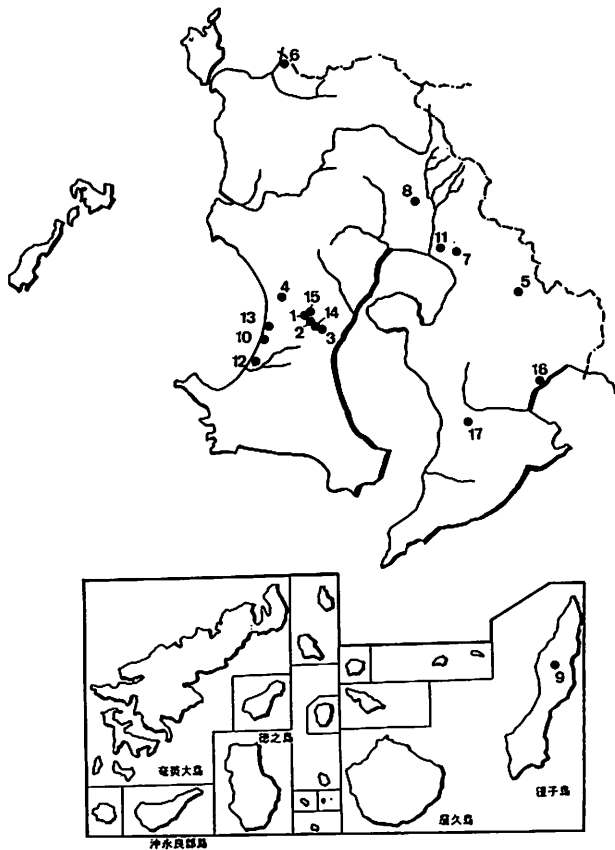
・転入者 (H8. 10. 1付)  
文化財調査員 鎌下 利治  
(前牧園町立万膳小学校校長)





～あなたも、遺跡をのぞいてみませんか？～

詳しい遺跡情報については、  
 <調査>欄の「県」は当センターへ、  
 「市・町・村」は当該市町村へ  
 お問い合わせください。



埋文センターが支援する市町村関係発掘調査

遺跡名	所在地	調査予定	調査の種類	備考
兼久搭原	天城町	6月～7月	確認調査	調査終了
出水貝塚	出水市	6月～7月	確認調査	調査終了
ウシロマタ	伊仙町	6月～7月	確認調査	調査終了
持鉢松	金峰町	7月～11月	確認調査	調査終了
志良辺堂外	知名町	7月	確認調査	調査終了
倉木崎	宇検村	7月～8月	確認調査	調査終了
前兼久B	知名町	7月	確認調査	調査終了
錯河	牧園町	7月～8月	全面調査	調査終了
カムイヤキ	伊仙町	7～8, 12月	確認・分布	
北野天神	南種子町	7月～8月	確認調査	調査終了
中津川	薩摩町	8月～9月	全面調査	調査終了
横峰	南種子町	8月～10月	確認調査	調査終了
横高尾	大根占町	8月～10月	確認調査	調査終了
志戸子	上屋久町	9月	確認調査	調査終了
伊木	内之浦町	10月	確認調査	調査終了
金吹ヶ段	串木野市	10月～11月	確認調査	調査終了
京塚	中種子町	10月～11月	全面調査	調査終了
日守	西之表市	10月～11月	全面調査	調査終了
崩尻	垂水市	10月～11月	確認調査	調査終了
小市原	樋脇町	11月	確認調査	調査終了
南十三塚	溝辺町	11月	確認調査	調査終了
楠原	有明町	12月～1月	全面調査	

埋文センターが調査する遺跡

	遺跡名	所在地	調査予定	調査の種類	備考
1	前原	松元町福山	4月～11月	全面調査	調査終了
2	前山	松元町石谷	4月～9月	全面調査	調査終了
3	宮尾	松元町石谷	4月～9月	全面調査	調査終了
4	永迫平 跡	伊集院町・東市来町	10月～3月	確認・全面	
5	桐木 跡	末吉町 跡	4月～3月	確認・全面	
6	鳥越平 跡	出水市 跡	8月～11月	確認調査	
7	上野原	国分市上之段	4月～3月	全面調査	
8	東免 跡	溝辺町	4月～3月	確認・全面	
9	三角山Ⅱ 跡	中種子町砂中	5月～3月	確認・全面	
10	市堀 跡	金峰町・吹上町	10月～3月	確認調査	
11	本御内	国分市中央	5月～6月	全面調査	調査終了
12	白糸原	金峰町宮崎	8月～10月	全面調査	調査終了
13	伊作城跡	吹上町中原	平成9年へ	立会い	
14	仁田尾	松元町石谷	4月～6月	全面調査	調査終了
15	伊堀	松元町石谷	10月～3月	全面調査	
16	後迫	大崎町益丸	6月～7月	確認・全面	調査終了
17	中尾	吾平町上名	8月～10月	全面調査	調査終了

埋文だより 第12号  
 発行日：平成8年11月30日  
 編集・発行：  
 鹿児島県立埋蔵文化財センター  
 〒899-56  
 鹿児島県始良郡始良町平松6252  
 TEL 0995-65-8787  
 FAX 0995-65-8117